

教科 科目名	公民科	単位数(週あたりの授業時数)	2 単位
	倫理	履修学年(類型)	3 学年 普・MS科文系
教科書名(出版社名)		高校倫理 新訂版(実教出版)	

●学習到達目標

人間の尊厳と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、人間と社会の在り方生き方についての理解を深めさせ、人間と社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識有る公民として必要な能力と態度を育てる。

●学習計画

学期	月	単元名	学習内容	
1	4月	青年期	①青年期の意義 ②青年期の課題	①人間の特色を考える。 ②青年期の人生における意義と「いかに生きるか」考え、自己を見つめる。
	5月	人間としての自覚	①ギリシア思想 ②キリスト教 ③イスラーム ④仏教 ⑤中国思想 ⑥芸術と人生	①ギリシア三大哲学者の思想を知る。 ②イエスの教え、キリスト教の世界観を知る。 ③イスラームの教え、世界観を知る。 ④仏教が生まれた背景、仏教の教えを知る。 ⑤儒家思想、道家思想などの中国思想を知る。 ⑥人生における芸術の意義を考える。
	6、7月	現代に生きる人間の倫理	①人間の尊厳 ②科学技術と人間 ③民主社会と自由の実現 ④社会と個人 ⑤人間への新たな問い	①ルネサンス、宗教改革、モリスなど の基本的な考え方を知る。 ②ベーコン、デカルトなどの基本的な 考え方を知る。 ③ホッブズ、ロック、ルソーなどの社会契 約説、カントの批判主義、ヘーゲルの基 本的な考え方を知る。 ④功利主義、実証主義、プラグマティズ ム、社会主義、主体性の自覚などの基 本的な考え方を知る。 ⑤現代思想の基本的な考え方を知る。
2	9、10月	日本人としての自覚	①古代日本人の思想 ②日本の仏教思想 ③近世日本の思想 ④西洋思想の受容と展開	①わが国の自然・風土、社会的特徴を 知り、日本人の考え方の源流を知る。 ②仏教をどのように受け入れ、広げたか 知る。 ③儒教をどのように受け入れたか、また 国学はどのように発展したかを知る。 ④西欧文化をどのように受け入れ、発 展させたかを知る。
	11月	現代の諸課題と倫理	①生命の倫理 ②環境の倫理 ③家族の課題 ④地域社会の課題 ⑤高度情報化社会の課題 ⑥文化と宗教の課題 ⑦国際平和と人類の福祉の課題	①生命倫理についての基本的な考え方 を知る②環境倫理についての基本的な 考え方を知る ③現代の家族のあり方を考える。 ④地域社会の現状と課題を知る。 ⑤高度情報化社会をいかに生きるかを 考える。 ⑥異文化理解の大切さを考える。 ⑦人類の平和について考える。
	12月	共通テスト演習		
3	1月	共通テスト演習		

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けている。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を身につけている。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりするとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を備えて
B	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解しようとし、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめようとする。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりしようとする。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりするとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考えようとしてい
C	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解しようとし、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめようとし、しない。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりしようとし、しない。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりするとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考えようとしてい
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査によって、出題範囲の知識・技能の習得状況、思考・判断・表現の能力を評価する。 ○ 学習活動の様子や発表、討論、ワークシートの記述などの内容を評価の資料とする。 ○ 単元ごとの振り返りや課題探求のレポートを評価の資料とする。 		
評価の重み	$\alpha=0.4$	$\beta=0.4$	$\gamma=0.2$

サンプル

教科 科目名	理科	単位数(週あたりの授業時数)	2 単位
	理数化学(化学基礎)	履修学年(類型)	I 学年 MS科
教科書名(出版社名)		改訂版 化学基礎 (数研出版)	

●学習到達目標

科学的な事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心と探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

●学習計画

学期	月	単元名	学習内容
1	4・5月	物質の構成	多種多様な物質を観察することによって、それらを整理・分類し、物質の成り立ちを追究する。
	6月	物質の構成粒子	物質を構成する基礎的な粒子である原子やイオンが種々の方法で結合した物質の構造や表しかた、それらの関係を学ぶ。
	7月	粒子の結合	物質が連続性をもたない小さな粒子からなることは中学でも学習しているが、個々の粒子がどのようなしくみで結合しているかは、簡単に触れただけで終わっている。ここではそれをさらに詳しく扱うことによって、物質の性質との関連も同時に学ぶ
2	9月	粒子の結合	物質の質量と、物質を構成する原子・分子・イオンなどの質量や数との関係や、気体についてはさらに体積との関係を学び、化学の学習に欠かすことのできない物質の考え方を身につける。
	10月	物質と反応式	酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを考え、酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を学ぶ。また、pHの表し方・中和の量的関係を学び、中和によって生じる塩の水溶液は必ずしも中性でないことにもふれる。
	11月	物質と反応式	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。
3	12月	酸と塩基の反応	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。
	1月	酸と塩基の反応	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。
	2月	酸化還元	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。
	3月	酸化還元	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	知識を問う問題にほぼ解答できる 実験を効率良く行う	思考力を問う問題に解答できる 化学現象を説明できる	自主的・積極的 協働的に取り組む
B	基本的な発問に答えられる 実験を手順通りに行う	自然科学の事象を考察できる 化学の現象名が言える	自然科学の事象の理解に 意欲を持って取り組む
C	基本的発問に答えられない 実験に参加していない	化学現象について判断しようとする	自然の科学事象に興味を持つ
評価 方法	定期考査 発問に対する答え 実験に対する技能	定期考査 発問に対する答え	授業・実験に取り組む姿勢 グループ活動での取組
評価の 重み	40%	40%	20%

一例であり、変更可能性があります